

新たな酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針及び家畜改良

増殖目標の検討における国民の皆様からの御意見・御要望について

1. 趣旨

「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」（酪肉近基本方針）及び「家畜改良増殖目標」の検討に当たっては、透明で開かれたプロセスとする観点から、資料や議事録を公開するとともに、今後の審議会における議論に活用するため、平成 26 年 4 月 4 日～9 月 30 日の間、酪肉近基本方針及び家畜改良増殖目標全般についての御意見・御要望を募集。

2. 頂いた御意見の数

61 件、16 人（法人・団体含む）

御意見の分野	(件)
酪農経営	12 (20%)
肉用牛経営	6 (10%)
家畜改良	10 (16%)
飼料	6 (10%)
家畜衛生	2 (3%)
畜産環境	10 (16%)
畜産物流通(生乳・食肉)	8 (13%)
畜産物の高付加価値化	3 (5%)
その他	4 (7%)

3. 頂いた主な御意見について

(1). 酪農・肉用牛経営

- ・酪農生産基盤の強化支援（経営安定・所得確保、新規就農・後継者確保、酪農経営の存続、自給飼料生産基盤強化、乳用雄牛の増頭）
- ・粗飼料主体の飼い方への転換
- ・飼料米、WCS の推進
- ・初期投資の補助
- ・家畜改良・肉用牛の種雄牛造成についてのご意見
- ・農地を荒廃から守り、自給飼料生産を振興するための農地直接支払制度の導入
- ・セーフティネットとしての酪農経営所得補償制度の創設と法制化

(2). 家畜改良

- ・霜降り和牛安定生産技術の確立

(3). 畜産物流通

- ・乳業再編・合理化、生乳取引基準の見直し、生産者組織機能強化、生乳及び牛乳・乳製品の需給調整等への支援

(3). 全体

- ・アニマルウェルフェアの取組の推進

（なお、61 件中 39 件（7 人・1 団体）はアニマルウェルフェアの観点からの意見）

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
男性	60代	広島県	その他	酪農経営	これまでの乳用牛は乳量、乳質に重点をおいて改良を進めた結果、飼育管理が難しく、個体の事故も多く、結果として飼育年数も短くなってきた。生産コストの低減がまず第一である。このためには、輸入飼料に依存する濃厚飼料多給型から、粗飼料主体のゆったりとした飼い方に転換すべきである。これ以上の改良は必要ないし、日本にあった飼養形態を普及すべきである。
女性	40代	大阪府	会社員	酪農経営	国際的に進められているアニマル・ウェルフェアへの取り組みを、日本でも推進すべき。その一つとして、放牧主体の酪農への積極的な転換を図るべきである。動物本来の習性を発揮できる放牧酪農はコストの削減につながるだけでなく、高い生産性にもつながる。東京大学の鈴木宣弘教授によると、「オーストラリアやニュージーランドでは牛乳1リットルあたりの生産コストが15～20円程。それに対し、日本は北海道で70円、本州で80円ほど。」とのこと。牛舎での効率を重視した飼育は、自然な放牧スタイルよりコストがかかり、動物への負担も大きい。日本と同じ地理的条件のスイスは放牧が主流であり、日本も放牧主体の酪農は不可能ではないと思われる。
女性	40代	大阪府	会社員	酪農経営	アニマル・ウェルフェアの欠如からおこる疾病や異常行動への対策を充実させるべき たとえば、乳牛の跛行についてデータをとり床材・飼料・管理方法の改善をはかるべき。跛行は乳牛に苦悩と激しい痛みを与えるだけでなく、生産性にも影響を与える。イギリスでは農業水産食料省の調査で、乳牛の跛行はウェルフェアの問題だと認識されている。また、本来子牛は1時間に6000回母牛の乳を吸うと言われており、産まれてすぐに母牛から分離される子牛は、乳に似たあらゆるものに吸い付くという異常行動を起こすことが知られている。バケツ哺乳ではなく人工乳首で吸乳できるように変えることで、消化酵素の分泌が大幅に増加することがわかっており、子牛の成長を促すためにも、母牛の乳を吸いたいという強い欲求を満たせるよう配慮する、など、疾病や異常行動への対策を充実させるべき
女性	40代	大阪府	会社員	酪農経営	畜産の近代化を図るためには、国際的に推進されている動物福祉への取り組みは欠かせない。その一つとして、牛の行動を著しく制限する繋ぎ飼育の規制を検討していくべき。スウェーデン、ノルウェー、フィンランドでは、牛は放牧される権利があるとし、夏期の2～4ヶ月間の放牧が義務付けられている。また繋ぎ飼育する場合にも、スタンションストールに比べ、タイストールの方が牛の行動の束縛がきつく、繋留方法も規制を検討すべき。
団体	団体	東京都	その他	酪農経営	家族経営が持続できるようにセーフティネットとしての酪農経営所得補償制度の創設と法制化(生産費急騰時でも地域別に家族労働費を補償) (酪農家戸数がピーク時の20分の1以下と構造改革が急激に進んだ日本酪農であるが、現在もたとえば都府県酪農の約半数が成畜30頭未満の家族経営が担っている。この家族経営を中心とした多様な酪農家が全国に存在することが、生乳生産の確保と安定供給、農地管理や地域経済の振興など、酪農の社会的意義を発揮するには非常に重要である。)
団体	団体	東京都	その他	酪農経営	最近のわが国酪農乳業をめぐる情勢は、過去に経験が無い深刻な状況にある。その主な原因は、酪農生産基盤の弱体化に歯止めがかからないことであるが、背景には、主に次のようなことが指摘されている。第1に、輸入飼料価格の高騰・高止まり等を背景とした酪農経営の高コスト化と収益性低下による酪農家の廃業の増加、経営継続意欲・規模拡大意欲の減退。第2に、高齢化・後継者確保困難による酪農家の廃業。第3に、経営改善・規模拡大・新規就農のために必要な投資の困難さ。第4に、肉用牛価格の高水準が続いていることから、乳用牛資源が肉用牛生産へ移出が続いていることである。 こうした状況がこのまま推移すれば、予測によると、10年後(平成37年度、2025年)のわが国における生乳生産量は、現状より約100万トン減少し650万トン程度になり、日本の牛乳乳製品市場の自給率は急速に低下することが見込まれる。 しかしその一方で、乳製品の国際需給は構造的な逼迫基調が続く、輸入乳製品による需給調整は安定性や機動性を確保することが難しいと見通され、生乳及び牛乳乳製品の国内需給は深刻な逼迫となる可能性が強い。 この結果、わが国国民の健康の維持・増進に欠かせない基礎的食料である牛乳乳製品の安定供給に重大な支障を来すことが懸念される。 したがって、わが国酪農乳業産業の持続的発展を引き続き確保していくためには、従来の取り組みや政策の枠組みを超えた緊急的対策を、政府及び酪農乳業関係者が一体となって強力に推進し、早期に圏内生乳生産の減少基調を改善することが必要である。

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
団体	団体	東京都	その他	酪農経営	<p>経営安定及び所得確保に係る政策的支援</p> <p>① 地球規模での食糧不足や新興国における畜産業の普及によって飼料穀物や乾牧草の輸入価格の高止まりが見込まれる状況の中にあって、現行の配合飼料価格安定制度及び加工原料乳等向けの経営安定対策の組み合わせでは、酪農経営の安定を図ることは困難である。</p> <p>② 家計消費の節約志向や食品小売業態の多様化と競争激化などの状況の中で、飲用牛乳類はロスリーダー化しやすいことから、商品価格への生産コスト転嫁が難しく、これが構造的な課題となっている。こうした飲用牛乳市場の特質を踏まえ、飲用原料乳地帯である都府県の酪農経営の安定をどのように図っていくのかについて、政策的な検証も重要である。</p> <p>③ 以上を踏まえ、全国全地域を視野に入れた新たな酪農の経営安定・所得確保に係る政策的支援を講ずることが必要である。</p> <p>■国に求める支援</p> <p>① あるべき日本酪農の姿を具体的に示し、それを実現するために、経営安定・所得確保に係る政策及びその運営の在り方等について検討を開始すること。</p> <p>② 経営安定・所得確保に係る政策等の検討が行なわれている間、生乳不足による危機的な現状に対処するための、暫定的緊急的な増産支援対策を講ずること。</p>
団体	団体	東京都	その他	酪農経営	<p>新規就農の促進・後継者確保</p> <p>① 新規就農の促進については、当面、他作物との競合関係や農地の集積状況、利用可能性などから、廃業酪農経営の資源継承が比較的容易である北海道及び都府県の中山間地などに集中した取り組みを推進することが有効である。</p> <p>② この場合、特に、新規就農による既存施設・機械の改修や新規取得に係る経済負担を軽減することが不可欠である。</p> <p>③ 新規就農者並びに若い担い手や後継者については、酪農家の減少による地域内での孤立感・閉塞感の解消、経営改善や意識の改革などのヒントを掴むきっかけとして、他の酪農家と緊密に接し相互研鑽する機会を提供することが重要である。</p> <p>④ 生乳生産量を確実に増やしていくため、酪農生産に、農協組織及び乳業等が資本参加する取り組みも有効な選択肢であることから、こうした新たな取り組みに対して、積極的に支援することが必要である。</p> <p>■業界自らが行う取り組み</p> <p>① 既存の酪農家ネットワークが自らまたは連携し、若い担い手や後継者、新規就農者が、優れた経営のノウハウや生産技術などについて、相互研鑽し共有化ができる機会を増やす取り組みを積極的に支援することが求められる。</p> <p>② 酪農家に対する適切な情報伝達や経営指導を推進していくため、農協組織において、必要な人材確保と経営サポートの仕組みを充実させることが必要となっている。</p> <p>③ 新たな経営転換や経営改善を希望する若い担い手や後継者に対する、質の高い総合的な指導・支援を実施するため、地域(農協や普及所・家畜共済・飼料会社・実績のある民間経営コンサルタントなど)の優れた指導者を構成者とする地域横断的な「指導者ネットワーク」などの仕組みを構築することが必要である。</p> <p>④ 農協組織及び乳業等が資本参加して行う酪農生産については、地域の乳牛資源を持続的補完的に確保するなどの位置づけを明確にしつつ、各地域で関係者が調整し計画的に取り組むことが求められる。</p> <p>■国に求める支援</p> <p>① 上記の業界が行う取り組みに対し、積極的かつ有効な支援を行う。</p> <p>② 新規就農を円滑に推進するため、継承する牛舎等の改築・改修及び新規取得する施設等への投資に対する税制面・費用面での支援を行う。</p>

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
団体	団体	東京都	その他	酪農経営	<p>酪農経営の存続・改善・強化</p> <p>① 後継者が存在するにもかかわらず、牛舎や施設の老朽化への対応、規模拡大のための再投資が困難であるなどの理由で離農するケースが多く見られ、これが地域の酪農生産基盤確保にとって大きな課題となっている。</p> <p>② 雇用労働力の確保が困難な状況、配偶者が酪農作業に従事しないことなどを前提として後継する若い酪農経営者が増えている状況の中で、搾乳ロボットなどの省力化施設、ヘルパーやコントラクターなどによる外部化、限定的な雇用労働力などを組み合わせた効率的経営の実現が、重要な課題となっている。</p> <p>■業界自らが行う取り組み</p> <p>① 地域の金融機関と連携したABL(動産・債権担保融資)の活用など、酪農経営の資金調達が円滑に進むようにする取り組みを積極的に推進する。なお併せて、酪農乳業が連携して行う生産基盤強化のための独自の仕組みを検討する必要がある。</p> <p>② 安定した労働力派遣を通じ経営全般をサポートするよう、酪農ヘルパー制度の機能拡充を図ることが必要である。</p> <p>■国に求める支援</p> <p>① 上記の業界が行う取り組みに対し、積極的かつ有効な支援を行う。</p> <p>② 意欲ある酪農後継者が、規模拡大を図り生乳の増産に転じられるようにするため、補助付きリースなどにより、省力化施設などの新技術導入に対する支援を行う。</p> <p>③ 生産基盤を維持する観点から、畜舎や施設の更新時期にある家族経営に対しても、支障なく経営を継続できるよう支援を行う。</p>
団体	団体	東京都	その他	酪農経営	<p>乳用雌牛の増頭対策</p> <p>① 搾乳牛の早急な増頭が必要となっているが、一方で、牛肉価格の高騰の中で、乳用牛への和牛交配率が増加し、これまで以上に乳用雌牛が減少すると見通される。従って、生乳不足に対応するためには、今後計画的な増頭対策を早急に実施することが必要である。</p> <p>■業界自らが行う取り組み</p> <p>① 乳用雌牛の増頭を図っていくため、農協組織等が、雌雄判別精液及び受精卵移植の効果的な活用・普及を促進する必要がある。</p> <p>② 乳用雌牛の確保のため、農協組織等が、規模拡大が困難な酪農経営から乳用雌子牛を買い取り育成し、規模拡大が可能な他の酪農経営に供給するなどの新たな取り組みを推進することが求められる。</p> <p>■国に求める支援</p> <p>・業界が行う、雌雄判別精液及び受精卵移植の活用・普及の促進、乳用雌牛の預託等の新たな取り組みを促進するため、必要な経費助成などの支援を行う。</p>

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
法人	60代	東京	農業	酪農経営	<p>近年、我が国の酪農生産基盤は急速に弱体化し、その傾向に歯止めがかからない状況にある。その主な要因として、輸入飼料価格の高騰等による酪農経営悪化から規模拡大や経営継続の意欲が減退していること、高齢化や後継者不足で廃業が増加していること、新規就農のために必要な投資が困難であること、高水準で推移する肉用牛価格の影響で乳用牛資源が肉用牛生産に移行していることなどが挙げられる。</p> <p>このままでは、将来的に国内牛乳製品需要の大半を輸入でまかなう事態を招きかねず、こうした現状を打開するため、政府と酪農乳業関係者が一体となり、従来の取り組みや政策の枠組みを超えた緊急的な対策を推進することで、国内酪農生産基盤の回復を実現しなければならない。よって、新たな「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」の検討にあたり、以下のとおり要望する。</p> <p>記</p> <ol style="list-style-type: none"> 酪農家の経営実態を適切に反映した乳価を実現できる体制構築 <ul style="list-style-type: none"> ・中小乳業メーカーの再編 ・流通体制の整備 経営支援対策 <ul style="list-style-type: none"> ・コントラクター組織体制の整備、未利用農地での積極的な飼料生産の支援など、自給飼料生産基盤拡充策の実施 ・経営全般をサポートするヘルパー事業への支援措置の強化 ・後継牛確保のため、乳用種の性選別精液や受精卵移植に対する助成 ・新たな所得補償制度の導入 新規就農支援及び後継者確保支援策の更なる充実以上
男性	60代	岡山県	農業	酪農経営	<p>生乳中の体細胞数の見直しについて</p> <p>バルク乳の体細胞数は、30万/ml以上になると乳房炎乳の混入が疑われることが家畜保健衛生所等の調査により解明されており、また乳房炎は生産乳量の減少を招くことから、本県でも30万/mlを自主的な規制値として設定している。このため、生産者団体を初め家畜保健衛生所、農業普及指導センター、行政、畜産協会等指導機関が一体となって30数年もかけ目標達成に向け取り組んできており、生産者自らも身を切る努力をしている。こういった中、農林水産省自らが、生乳の需給がタイトになったからといって、体細胞数の規制の緩和を提案したことは、生産現場の努力を無にすることで全く理解できない。安全で高品質な生乳を消費者に供給することは畜産サイドの使命であり、それを放棄することは、消費者の信頼を失墜させることにも繋がることから今回の体細胞数の見直しについては、断じて認められない。</p>

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
男性	30代	山口	農業	肉用牛経営	<p>祖父から繁殖牛経営を引き継いで始めましたが最初の頃は、本当に経営も苦しく若い年代が出来る仕事ではないかなと思いました。全国的に高齢者が畜産を支えているのも生活費は、年金があるからだと思います。</p> <p>牛を増やそうと思って自分でも補助金も探したりして経営をしていったのですが、とてもじゃないですが足りません。</p> <p>畜産は、初期投資も大きく始める前には、生活費など必要な資金を持って始めないと無理だと言うことを全国的に正直にJAまたは農林事務所等が、新規就農者に伝えるべきだと思います。果たしてそれで若い人が農業する気になるでしょうか？</p> <p>青年給付金もいいのですが、僕ら畜産農家は、多額の借金をして就農して、タッチの差でこの補助金を貰えずにもがいて苦しんでいます。</p> <p>日本政策金融公庫からも返済もあり世界情勢に振り回され、飼料代、肥料、資材が上がっていき下がりがありません。</p> <p>それでもなんとか現在牛の頭数も目標近くまで来ましたが、しかし返済が終わる頃には自給飼料を取る作業機械、トラクターなどが更新が来て、また投資しないとなりません。機械の更新はどの職種でも一緒なのですが農業は、機械の数が少ないので割高なのです。</p> <p>最近の補助金は、自治会、法人化に対象が多いのですが、牧草地は田んぼに隣接しておらず国営の山の中の圃場なのでなかなか思った補助が受けられない事もあります。</p> <p>なかなか文章で意見というのは、難しいですが農家で人並みの生活が出来るっていう現実を作らないとこの先は、若い人は参入できないと思います。</p>
男性	60代	広島県	その他	肉用牛経営	<p>配合飼料価格が高止まりの中で、肉用牛農家は厳しい経営を余儀なくされている。TPPなど今後自由化が加速化する中で、日本が他国との違いの見せる牛肉生産をする必要がある。霜降りの高級肉を低コストで、安定的に生産できる手法の普及が必要。名人芸では供給量が不足する。誰もが生産できるよう技術確立が必要である。一方、赤みが多少ある大衆向けの美味しくて、安価な牛肉も必要である。二極化した経営が、其々発展していける道筋を示す時である。</p>
女性	40代	大阪府	会社員	肉用牛経営	<p>脂肪交雑を目的とした、ビタミンAの給与制限に明確な基準を設けるべき。</p> <p>ビタミンAは、視力維持に必要な成分。欠乏がひどくなると盲目になりやすく、現実に盲目や視力が低下している肉牛がいることがわかっている。また肉牛の「突然死」もビタミンAの給与制限に起因するとの指摘もある。</p>
女性	40代	大阪府	会社員	肉用牛経営	<p>動物福祉の観点から、牛肉の生産情報公表JAS規格の見直しを検討すべき。</p> <p>生産情報公表JAS規格は、食品の生産情報(誰が、どこで、どのように生産したか)を消費者に提供する仕組みであるはずだが「どのように生産されたか」の情報が無い。</p> <p>健康にのびのびと飼育された牛の肉を食べたいというのは、健康志向の高まっている昨今においても多くの消費者の望むところであり、飼育方法について</p> <p>放牧か舎飼いか、尾・角の切断の有無、去勢の方法、舎飼いにおける1頭あたりの飼育面積、などの情報も公表するべきと考える。</p>
女性	40代	大阪府	会社員	肉用牛経営	<p>畜産の近代化を図るためには、国際的に推進されている動物福祉への取り組みは欠かせない。</p> <p>断角は肉牛に負担を強いるものであり、その是非について議論をしていくべき。</p> <p>断角をやむをえず行う場合も、ヨーロッパでは角の先だけ切断し、ゴムの角カバーを付け、攻撃力を弱めることで対処しており、福祉に配慮した方法を日本でも普及させていくべき。</p> <p>また断角(除角)の時期であるが、「アニマルウェルフェアに対応した飼養管理指針」では「除角によるストレスが少ないと言われている焼きごてでの実施が可能な生後2ヶ月以内に実施」することが推奨されているが、日本で断角される肉牛のほとんどは3カ月以上で断角されている。断角する場合は、子牛市場に出す前に行うよう転換していくべきである。</p>

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
法人	法人	東京都	その他	肉用牛経営	<p>脂肪交雑を目的とした、ビタミンAの給与制限に明確な基準を設けるべき。 ビタミンAは、視力維持に必要な成分。欠乏がひどくなると盲目になりやすく、現実に盲目や視力が低下している肉牛がいることがわかっている。また肉牛の「突然死」もビタミンAの給与制限に起因するとの指摘もある。</p> <p>動物福祉の観点から、牛肉の生産情報公表JAS規格の見直しを検討すべき。 生産情報公表JAS規格は、食品の生産情報（誰が、どこで、どのように生産したか）を消費者に提供する仕組みであるはずだが「どのように生産されたか」の情報がない。 健康にのびのびと飼育された牛の肉を食べたいというのは、健康志向の高まっている昨今においても多くの消費者の望むところであり、飼育方法について 放牧か舎飼いか、尾・角の切断の有無、去勢の方法、舎飼いにおける1頭あたりの飼育面積、などの情報も公表するべきと考える。</p> <p>畜産の近代化を図るためには、国際的に推進されている動物福祉への取り組みは欠かせない。 断角は肉牛に負担を強いるものであり、その是非について議論をしていくべき。 断角をやむをえず行う場合も、ヨーロッパでは角の先だけ切断し、ゴムの角カバーを付け、攻撃力を弱めることで対処しており、福祉に配慮した方法を日本でも普及させていくべき。 また断角（除角）の時期であるが、「アニマルウェルフェアに対応した飼養管理指針」では「除角によるストレスが少ないと言われている焼きごてでの実施が可能な生後2ヶ月以内に実施」することが推奨されているが、日本で断角される肉牛のほとんどは3カ月以上で断角されている。断角する場合は、子牛市場に出す前に行うよう転換していくべきである。</p>
男性	30代	東京	マスコミ	家畜改良	<p>肉用牛の種雄牛造成について意見を述べさせていただきます。 現場の農家さんを回って「どうい種雄牛が欲しいか」と聞くと、大抵「ハーフや三元交配の種雄牛はもういらぬ。藤良と気高の純系が欲しい」という答えが帰ってきます。理由は主に2つです。 1つはハーフや三元交配型の種雄牛産子は子牛の特徴や発育、枝肉成績や作りがバラつくこと、もう1つは繁殖農家で使用されている雌牛はコマーシャル牛の生産用なので三元交配・四元交配の牛が多いなか、それにハーフや三元交配型の種雄牛を交配すると近親交配になって近交係数が高くなってしまい、それを避けようとする交配の選択肢が狭まってしまうためです（もちろん、そんなことは先刻承知だとは思いますが）。 民間や各県では育種価の高い雌に流行の種雄牛を交配したハーフや三元交配型種雄牛が大勢を占めています。それが現場で交配の幅を狭めているわけですが、それに対しては国がいろいろ意見を述べるのが難しいと思います。しかし、家畜改良センターにおける種雄牛造成に対しては意見を述べられると思いますので、ぜひ改良センターで藤良と気高の純系を造成するよう指導をお願いします。 家畜改良事業団の種雄牛や候補牛を見てみると十勝牧場や宮崎牧場産の牛は、せっかく母体が純系なのに父が母体と違う系統のハーフの場合が多く見られ、もったいないと思っています。鳥取牧場は兵庫系（田尻系）の純系種雄牛の造成に特化した結果、非常に優秀な種雄牛を毎年送り出し、和牛農家に貢献しています。ですから十勝牧場と宮崎牧場においては、5代純系は難しいと思いますが、せめて3代純系で藤良・気高（できれば菊美・熊波・栄光も）の種雄牛を造成することに特化していただければと思います。これこそ民間や県ではできない、改良センターだからこそできる種畜造成だと考えています。 もし、田尻・藤良・気高の純系種雄牛が複数揃えば、生産者は近親交配を気にすることなく雑種強勢を期待した輪番交配が可能になります。またそうした交配ができれば、近交退化を防ぐことになるので治療費の削減にもつながると思います。 それともう1つは系統の分類の仕方についてです。現在は種雄牛を父系によって分類をしていますが、これはいかがなものでしょうか？例えば事業団の美津百合のように4代祖までに出てくる8頭の種雄牛のうち気高系は2頭しかいないで、他は兵庫系が6頭（田尻系4頭・熊波系2頭）という血統構成なのに、現状ですと分類上は気高系になります。しかし、本牛や枝肉成績を見ると、気高系の特徴ではなく兵庫系の特徴が強く出ている印象です。これはやはり生産者に混乱をもたらしていると思いますので、分類の仕方をもう少しどうにかできないでしょうか？「平茂勝みたいに強健で大きな牛を期待して茂勝栄を付けたけど、生まれてきた子牛は兵庫系みたいに小さくて体質が弱く困った」という話もよく聞きました。純系で種雄牛造成を行えばこうしたことは少なくなると思いますが、民間ではなかなかそういう種雄牛造成は進みそうにないので、こうしたことを防ぐためにも系統分類の再考もご検討くださいますよう、よろしく願いいたします。</p>

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
男性	60代	広島県	その他	家畜改良	これまでの家畜改良は、家畜の長命化を余り重視してこなかったのではないかとよく言われるF1レーシングカーを作り、その操作技術がついていかず事故ばかりとなる。本当の経済性は、個々の繁殖牛、搾乳牛を長期間飼育できることではないか。身体の強い、耐久力に優れた牛づくりが必要ではないか。質重視の改良は、もうこの辺でよいのでは。貴重な資源を大切に改良が必要である。
女性	40代	大阪府	会社員	家畜改良	生産性だけでなく、動物福祉に配慮した家畜改良をするべき。生産性を求めた遺伝的選抜は、畜産動物に過度な負担を強いる結果となっている。ブロイラーは、急激に成長するよう改良されており、突然死症候群は成長率が高いブロイラーほど多いことがわかっている。イギリスの研究では、ブロイラーの30%近くは体を支えることが難しく歩行困難となり、3%はほとんど歩行不能となっているとのことである。採卵用鶏は、本来なら1年間に20個程度の産卵を300個にまで人為淘汰によって増やされている。こういった、少量の餌でたくさんの卵を産ませるために行われてきた遺伝的選抜は、鶏の骨をもろくしてしまった。自らに必要なカルシウムも卵のとして輩出され、と殺のための出荷前の捕鳥作業時、輸送のときに骨折しやすいことが知られている。
女性	40代	大阪府	会社員	家畜改良	人工授精から自然交配への転換を人工授精は、技術の未熟さや不注意による生殖器病を起こす可能性がある。注入器を膈内にいれ、人の腕を直腸から奥深くに挿入して行う人工授精は、動物の自然な姿からはかけ離れたものであるだけではなく、100万～200万頭の牛を2000頭ほどの種牛の精子で受精させていくというやり方は、遺伝的多様性を減少させることにもつながる。年々人工授精成功率が下がっていることとも、これと無関係とはいえないのではないだろうか。人工授精から自然交配の繁殖に切り替えていくべきである
女性	40代	大阪府	会社員	家畜改良	生産性を向上するために、暑熱対策、良質な飼料や水の給与等の飼養管理のみではなく、動物の本来の習性が発揮できる環境づくりに取り組むべき。疫学研究によれば、広々とした空間で少ない羽数で飼育されると、採卵用鶏は多く産卵し、死亡率が低くなることが分かっている。また、群飼や輸送回避といったストレスフリーで育った豚は、体重が増えることが分かっている。群飼は動物同士のけんかが多くなるともいわれるが、たとえば豚の隠れ場所を用意することで豚同士のけんかは減るし、鶏に止まり木を与えることで攻撃性を減らすことができる。
女性	40代	大阪府	会社員	家畜改良	競走馬はあまりにも大きな負担を強いられており、これ以上の改良に歯止めをかける必要。競走馬は「速く走る」ことに特化した交配と淘汰の結果、体重に対する足の太さが限界まで細くなってしまっていると言われている。細い4本の脚で400～500kgの体重を支えるには負担が大きく、骨折しやすい。骨折すると、残りの3本の足で体重を支えることができず、多くは殺処分されてしまう。競走馬としての調教の過程の負担も大きく、中央競馬では毎年1000頭の馬が「ソエ」（骨が出来上がっていない成長期の若い馬に、限度を超える調教を行うことで発症する病気。強い痛み、跛行、重度になると亀裂骨折する）を発症している。またJRA研究所によると競走馬の8割が胃潰瘍になっているという。競馬人口は減ってきており、現在の競走馬の負担の大きさを考えると、畜産振興の一環としての競馬そのものを見直す必要があると考える。
女性	40代	大阪府	会社員	家畜改良	乳牛改良の目的を、乳量増加に置くべきではないと考える。肉牛であり見られない乳牛の産後の起立不能はカルシウム不足が主要原因といわれているが、乳量増加に着目した改良が、カルシウム不足の要因と考えられないだろうか。年々乳牛1頭あたりの乳量は増加しているが、たくさん乳を出すということはたくさんカルシウムを排出するということであり、乳牛の産後の起立不能は、乳牛の高泌乳量と無関係ではないはずだ。高泌乳牛は病気にかかり易いとはよく言われることであり、第四胃変位も高泌乳牛群に多い傾向があり、その発生率は3～15%に及んでいる(2008年 日産合成工業株式会社 学術・開発部資料)。すでに日本の乳牛1頭当たりの乳量は世界トップクラス(約8000kg)であり、EUの平均(6669kg)と比較しても高いのである。これ以上の乳量を重視した改良には歯止めをかけるべきと考える。

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
法人	法人	東京都	その他	家畜改良	<p>家畜改良 生産性だけではなく、動物福祉に配慮した家畜改良をするべき。 生産性を求めた遺伝的選抜は、畜産動物に過度な負担を強いる結果となっている。 ブロイラーは、急激に成長するよう改良されており、突然死症候群は成長率が高いブロイラーほど多いことがわかっている。イギリスの研究では、ブロイラーの30%近くは体を支えることが難しく歩行困難となり、3%はほとんど歩行不能となっているとのことである 採卵用鶏は、本来なら1年間に20個程度の産卵を300個にまで人為淘汰によって増やされている。こういった、少量の餌でたくさんの卵を産ませるために行われてきた遺伝的選抜は、鶏の骨をもろくしてしまった。自らに必要なカルシウムも卵のとして輩出され、と殺のための出荷前の捕鳥作業時、輸送のときに骨折しやすいことが知られている。</p> <p>人工授精から自然交配への転換を 人工授精は、技術の未熟さや不注意による生殖器病を起こす可能性がある。注入器を膈内にいれ、人の腕を直腸から奥深くに挿入して行う人工授精は、動物の自然な姿からはかけ離れたものであるだけではなく、100万～200万頭の牛を2000頭ほどの種牛の精子で受精させていくというやり方は、遺伝的多様性を減少させることにもつながる。年々人工授精成功率が下がっていることとも、これと無関係とはいえないのではないだろうか。人工授精から自然交配の繁殖に切り替えていくべきである</p> <p>生産性を向上するために、暑熱対策、良質な飼料や水の給与等の飼養管理のみではなく、動物の本来の習性が発揮できる環境づくりに取り組むべき。 疫学研究によれば、広々とした空間で少ない羽数で飼育されると、採卵用鶏は多く産卵し、死亡率が低くなることが分かっている。また、群飼や輸送回避といったストレスフリーで育った豚は、体重が増えることが分かっている。群飼は動物同士のけんかが多くなるともいわれるが、たとえば豚の隠れ場所を用意することで豚同士のけんかは減らし、鶏に止まり木を与えることで攻撃性を減らすことができる。</p> <p>競争用馬の改良の停止 競走馬はあまりにも大きな負担を強いられており、こ以上の改良に歯止めをかける必要べき。 競走馬は「速く走る」ことに特化した交配と淘汰の結果、体重に対する足の太さが限界まで細くなってしまっていると言われている。細い4本の脚で400～500kgの体重を支えるには負担が大きく、骨折しやすい。骨折すると、残りの3本の足で体重を支えることができず、多くは殺処分されてしまう。競走馬としての調教の過程の負担も大きく、中央競馬では毎年1000頭の馬が「ソエ」（骨が出来上がっていない成長期の若い馬に、限度を超える調教を行うことで発症する病気。強い痛み、跛行、重度になると亀裂骨折する）を発症している。 またJRA研究所によると競走馬の8割が胃潰瘍になっているという。 競馬人口は減ってきており、現在の競走馬の負担の大きさを考えると、畜産振興の一環としての競馬そのものを見直す必要があると考える。</p> <p>乳牛改良の目的を、乳量増加に置くべきではないと考える。 肉牛であまり見られない乳牛の産後の起立不能はカルシウム不足が主要原因といわれているが、乳量増加に着目した改良が、カルシウム不足の要因と考えられないだろうか。年々乳牛1頭あたりの乳量は増加しているが、たくさん乳を出すということはたくさんカルシウムを排出することであり、乳牛の産後の起立不能は、乳牛の高泌乳量と無関係ではないはずだ。高泌乳牛は病気にかかり易いとはよく言われることであり、第四胃変位も高泌乳牛群に多い傾向があり、その発生率は3～15%に及んでいる（2008年 日産合成工業株式会社 学術・開発部資料）。 すでに日本の乳牛1頭当たりの乳量は世界トップクラス（約8000kg）であり、EUの平均（6669kg）と比較しても高いのである。これ以上の乳量を重視した改良には歯止めをかけるべきと考える。</p>

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
法人	法人	東京都	その他	家畜改良	<p>生産性だけではなく、動物福祉に配慮した家畜改良をするべき。 生産性を求めた遺伝的選抜は、畜産動物に過度な負担を強いる結果となっている。 ブロイラーは、急激に成長するよう改良されており、突然死症候群は成長率が高いブロイラーほど多いことがわかっていて。イギリスの研究では、ブロイラーの30%近くは体を支えることが難しく歩行困難となり、3%はほとんど歩行不能となっているとのことである 採卵用鶏は、本来なら1年間に20個程度の産卵を300個にまで人為淘汰によって増やされている。こういった、少量の餌でたくさんの卵を産ませるために行われてきた遺伝的選抜は、鶏の骨をもろくしてしまった。自らに必要なカルシウムも卵のとして輩出され、と殺のための出荷前の捕鳥作業時、輸送のときに骨折しやすいことが知られている。</p> <p>人工授精から自然交配への転換を 人工授精は、技術の未熟さや不注意による生殖器病を起こす可能性がある。注入器を膈内にいれ、人の腕を直腸から奥深くに挿入して行う人工授精は、動物の自然な姿からはかけ離れたものであるだけではなく、100万～200万頭の牛を2000頭ほどの種牛の精子で受精させていくというやり方は、遺伝的多様性を減少させることにもつながる。年々人工授精成功率が下がっていることとも、これと無関係とはいえないのではないだろうか。人工授精から自然交配の繁殖に切り替えていくべきである</p> <p>生産性を向上するために、暑熱対策、良質な飼料や水の給与等の飼養管理のみではなく、動物の本来の習性が発揮できる環境づくりに取り組むべき。 疫学研究によれば、広々とした空間で少ない羽数で飼育されると、採卵用鶏は多く産卵し、死亡率が低くなることが分かっている。また、群飼や輸送回避といったストレスフリーで育った豚は、体重が増えることが分かっている。群飼は動物同士のけんかが多くなるともいわれるが、たとえば豚の隠れ場所を用意することで豚同士のけんかは減るし、鶏に止まり木を与えることで攻撃性を減らすことができる。</p>
法人	法人	東京都	その他	家畜改良	<p>競争用馬の改良の停止 競走馬はあまりにも大きな負担を強いられており、こ以上の改良に歯止めをかける必要べき。 競走馬は「速く走る」ことに特化した交配と淘汰の結果、体重に対する足の太さが限界まで細くなってしまっていると言われている。細い4本の脚で400～500kgの体重を支えるには負担が大きく、骨折しやすい。骨折すると、残りの3本の足で体重を支えることができず、多くは殺処分されてしまう。競走馬としての調教の過程の負担も大きく、中央競馬では毎年1000頭の馬が「ソエ」(骨が出来上がっていない成長期の若い馬に、限度を超える調教を行うことで発症する病気。強い痛み、跛行、重度になると亀裂骨折する)を発症している。 またJRA研究所によると競走馬の8割が胃潰瘍になっているという。 競馬人口は減ってきており、現在の競走馬の負担の大きさを考えると、畜産振興の一環としての競馬そのものを見直す必要があると考える。</p> <p>乳牛改良の目的を、乳量増加に置くべきではないと考える。 肉牛であり見られない乳牛の産後の起立不能はカルシウム不足が主要原因といわれているが、乳量増加に着目した改良が、カルシウム不足の要因と考えられないだろうか。年々乳牛1頭あたりの乳量は増加しているが、たくさん乳を出すということはたくさんカルシウムを排出することであり、乳牛の産後の起立不能は、乳牛の高泌乳量と無関係ではないはずだ。高泌乳牛は病気にかかり易いとはよく言われることであり、第四胃変位も高泌乳牛群に多い傾向があり、その発生率は3～15%に及んでいる(2008年 日産合成工業株式会社 学術・開発部資料)。 すでに日本の乳牛1頭当たりの乳量は世界トップクラス(約8000kg)であり、EUの平均(6669kg)と比較しても高いのである。これ以上の乳量を重視した改良には歯止めをかけるべきと考える。</p>

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
団体	団体	東京都	その他	飼料	農地の維持や耕作放棄地の再生には畜産的利用(放牧、水田における飼料用米、WCSを含む田畑での飼料生産)が最適であり、その中心を担うのは酪農家である。 1.農地を荒廃から守り、自給飼料生産を振興するための農地直接支払制度の導入 1)水田と畑地に対する直接支払制度に畜産的利用をきちんと位置づけ、水田(飼料稲等)と畑地(トウモロコシ・牧草等)の地目による支払い単価の格差を少なくする 2)飼料用米・WCS等の交付金は、使用する畜産農家にも助成すること 3)農地の多面的機能に対する直接支払いを酪農支援の基本と位置付けること
男性	60代	広島県	その他	飼料	飼料自給率を高めるため、飼料米、飼料稲WCS等の利用拡大が求められる。国の助成が無くなった場合でも、輸入穀物よりも安価に供給できるように、生産対策を講じておくべきである。 食品残さの活用について、食料を決して無駄にしないためにも、幅広く全ての家畜に利用できるように飼料を製造してもらいたい。 人口の多い新興国が経済発展とともに食生活も向上し、動物性蛋白を多く食するようになると、日本は飼料原料の輸入、確保が困難となる。その時の備えが必要である。
女性	40代	大阪府	会社員	飼料	濃厚飼料ゼロを目標にすべきと考える。 近年、牛の第四胃変位が増えてきているといわれており、濃厚飼料多給が大きな原因のひとつと言われている。牛は本来牧草を食べる生き物であるし、濃厚飼料ゼロの飼育は可能なのである(国内の養老牛山本牧場では濃厚飼料ゼロである)。持続可能で自然循環型の畜産を目指すためには濃厚飼料ゼロを目指すべきである。
法人	法人	東京都	その他	飼料	濃厚飼料ゼロを目標にすべきと考える。 近年、牛の第四胃変位が増えてきているといわれており、濃厚飼料多給が大きな原因のひとつと言われている。牛は本来牧草を食べる生き物であるし、濃厚飼料ゼロの飼育は可能なのである(国内の養老牛山本牧場では濃厚飼料ゼロである)。持続可能で自然循環型の畜産を目指すためには濃厚飼料ゼロを目指すべきである。
団体	団体	東京都	その他	飼料	自給飼料生産基盤の強化 ① 今後、飼料穀物や乾牧草類の国際的な需給ひっ迫、価格高騰が見通される状況の中で、わが国酪農経営の安定と持続性を確保していくためには、酪農生産における飼料自給率を着実に高めていくことが不可欠である。 ② 耕作放棄地や転作固などの未利用農地を、酪農生産で上手に活用することは、国土保全・景観維持などの点から、酪農生産に期待される重要な社会貢献活動であり、わが国酪農の社会的価値の強化にもつながる。 ■業界自らが行う取り組み ① 地域内における耕畜連携などを一層強化し、個別経営の枠組みを超えた、酪農生産における自給飼料拡大を進めることが重要である。 ② 飼料生産の労働負担を軽減するため作業の外部化を進めると共に、その受け皿となるコントラクター組織の体制を整備する必要がある。 ③ 耕作放棄地や転作固などの未利用農地における飼料生産を積極的に進めることが求められる。 ④ 農協組織、飼料会社などが連携して圏内で飼料を増産し、これを流通させる取り組みを推進する必要がある。 ■国に求める支援 ① 耕作放棄地や転作田などの未利用農地の活用について、飼料を生産する酪農家等の耕作者の立場に立った政策の見直しを図るとともに、通常よりも増嵩する生産コストを補てんするなどの支援を行う。 ② 北海道など飼料生産に適した地域で生産した粗飼料を、他地域で活用するため、国産粗飼料の輸送・流通コストに対する助成を行うなどの支援を行う。

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
男性	50代	愛知県	会社員	飼料	食糧安全保障の上で、飼料自給率の向上は重要であるが、国産飼料の増産は、我が国の地形や気象条件、担い手や補完機能の確保等から時間を要するため、当面、飼料の原材料を海外に依存せざるを得ない。輸入品の安定的な確保には、計画的な買付けと、効率的な輸送体制の確立が、海上輸送費の低減にも重要である。複数品種の複数港での荷揚げ、大型船が入港できる港湾の整備に向けて、関係省庁が連携した対応を進めて欲しい。
女性	40代	大阪府	会社員	家畜衛生	家畜伝染病予防のために、動物福祉を充実させるべき。家畜伝染病と動物福祉のは切り離せないものとして、OIEはじめ各国で動物福祉への取り組みが進められている。しかし日本においては畜産動物に関して拘束力のある規制はなく、海外で禁止されつつある繁殖用のメス豚のストール(檻)飼育や、採卵用鶏のバタリーケージが一般的に行われるなど、動物福祉への取り組みが非常に遅れている。
法人	法人	東京都	その他	家畜衛生	家畜伝染病予防のために、動物福祉を充実させるべき。家畜伝染病と動物福祉のは切り離せないものとして、OIEはじめ各国で動物福祉への取り組みが進められている。しかし日本においては畜産動物に関して拘束力のある規制はなく、海外で禁止されつつある繁殖用のメス豚のストール(檻)飼育や、採卵用鶏のバタリーケージが一般的に行われるなど、動物福祉への取り組みが非常に遅れている。 ワクチンや抗生物質をより減らすことは国民にとっても利益のあることであり、そのためにも自然に近い環境を動物に提供することが必要である。実際、アニマルウェルフェアに配慮された養豚施設ではワクチンは1回のみであっても健康であるなど、健康に寄与できている。
男性	30代	神奈川県	その他	畜産環境	動物先進国であるドイツやオランダの様に家畜への福祉強化をお願いします。まず無麻酔での去勢や角きりの禁止。と殺は麻酔での安楽死をお願いします。《酪農学園大学 女子学生が首をつり自殺》牛達への安楽死を求めたが却下された子が自殺しました。これは家畜だけでなく私たちも家畜や実験で殺される動物がいる事で耐え難い苦痛を受けています。社会問題になる前に家畜の福祉強化をお願いします。
女性	40代	大阪府	外食産業	畜産環境	畜産のアニマルウェルフェアを進めていただければ幸いです。
女性	40代	大阪府	会社員	畜産環境	環境破壊の対策の一つとして、畜産を縮小していくべきである。米国のワールドウォッチ研究所が2009年に発表した論文によると、畜産からの二酸化炭素排出量は少なくとも年間326億トンで、世界の年間排出量の51%に上るとしている。OIEは2011年から2015年までの第5次戦略会議で「家畜生産と地球環境」をあげており、畜産から出されるメタンガスの軽減などが課題となっている。畜産、特に牛が環境破壊の主要要因のひとつであることは、すでに2006年にFAOが報告しているところである。地表面積の30%を占める畜産は、環境問題と密接に関係しており、畜産の縮小は早急に取り組むべき課題と考える。
女性	40代	大阪府	会社員	畜産環境	食料危機・水不足を回避するために、畜産を縮小すべきである。2012年イギリスのガーディアン誌は「壊滅的な食糧危機を避けるためには、今後40年間で世界人口はほぼベジタリアンにならなければならないだろう」という警告を出している。また国連は2025年には世界中の2/3の人が水不足に陥るだろうとっており、国連環境計画は、「2030年までに17億増える人口を養う水を確保するためには、天水に頼る作物栽培を増やすとともに食肉消費も減らさねばならない」と発表している。
女性	40代	大阪府	会社員	畜産環境	飼養規模拡大を推進すべきではない。すでに日本における1頭あたりの飼養規模は高い。EUでは乳牛の平均飼養頭数が33頭、日本は72頭。規模の拡大は、機械化、施設化、畜産と耕種部門の分離につながる可能性が高く、そのような工場型の畜産は石油エネルギーに依存しており環境への負荷が高いものになってしまう。また、飼養規模拡大は、資金のある大手が生き残り小農家がつぶれることにつながる可能性が高いのではないかと。ノルウェーでは農場サイズを制限する法律を持っている、6次産業の促進のためにも、そのような小農家の保護につながる施策をとるべき。

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
法人	法人	東京都	その他	畜産環境	<p>環境破壊の対策の一つとして、畜産業を縮小していくべきである。 米国のワールドウォッチ研究所が2009年に発表した論文によると、畜産業からの二酸化炭素排出量は少なくとも年間326億トンで、世界の年間排出量の51%に上るとしている。OIEは2011年から2015年までの第5次戦略会議で「家畜生産と地球環境」をあげており、畜産業から出されるメタンガスの軽減などが課題となっている。畜産業、特に牛が環境破壊の主要要因のひとつであることは、すでに2006年にFAOが報告しているところである。 地表面積の30%を占める畜産業は、環境問題と密接に関係しており、畜産業の縮小は早急に取り組むべき課題と考える。</p> <p>食料危機・水不足を回避するために、畜産業を縮小すべきである。 2012年イギリスのガーディアン誌は「壊滅的な食糧危機を避けるためには、今後40年間で世界人口はほぼベジタリアンにならなければならないだろう」という警告を出している。また国連は2025年には世界中の2/3の人が水不足に陥るだろうとっており、国連環境計画は、「2030年までに17億増える人口を養う水を確保するためには、天水に頼る作物栽培を増やすとともに食肉消費も減らさねばならない」と発表している。</p> <p>飼養規模拡大を推進すべきではない。 すでに日本における1頭あたりの飼養規模は高い。EUでは乳牛の平均飼養頭数が33頭、日本は72頭。規模の拡大は、機械化、施設化、畜産と耕種部門の分離につながる可能性が高く、そのような工場型の畜産は石油エネルギーに依存しており環境への負荷が高いものになってしまう。また、飼養規模拡大は、資金のある大手が生き残り小農家がつぶれることにつながる可能性が高いのではないかと。ノルウェーでは農場サイズを制限する法律を持っている、6次産業の促進のためにも、そのような小農家の保護につながる施策をとるべき。</p>
女性	20代	東京都	その他	畜産環境	<p>家畜動物の飼育環境を、動物福祉の観点から見直すべきであると思います。家畜伝染病も動物福祉と密接に関係しています。ヨーロッパ各国で動物福祉への取り組みが進められていますが、日本は畜産動物に関して拘束力のある規制はなく、海外で禁止されつつある繁殖用のメス豚のストール飼育や、採卵用鶏のバタリーケージが一般的に行われ、取り組みが非常に遅れています。飼育方法についての詳しい情報も公表することを望みます。</p>
女性	40代	茨城県	会社員	畜産環境	<p>TPPで安い海外製品と競争しなくてはいけないとか、原油・飼料価格高騰でコスト削減が厳しいとかいう問題を、これからの情報社会においてどう解決するか、私の意見を述べさせていただきます。 ツイッターなどにより、業界の裏話を見つけて拡散するのが流行っています。人々は、ネタを渴望しています。 畜産動物の福祉が不十分であることが暴露されるのは時間の問題です。 少子化の一方で、ペットは増え続けています。 日本の家庭は、かつては子供に食べさせるために、製造元を考えたり選んだりする余裕もなく大量に畜産品を購入したのですが、これからは、子供のいない家庭が、自分が本当に食べたい物だけを選んで食べる、というパターンが増えるのは間違いありません。 海外のほうが動物福祉が進んでいるとわかったら、消費者はどうするでしょう。 逆に、もしも、日本の畜産が、海外よりも動物福祉の優れたものだったら、多少高くても、消費者は選ぶでしょう。 来るべく時代に消費者に胸を張って説明できるように、今から、動物福祉を進めるべきだと思います。 そのために、今はまだ動物福祉が満足できる状態ではないとしても、それは畜産農家だけでなく消費者や各種団体にも責任があることで、畜産業界だけが悪者になって隠しておく必要はなく、マスコミと協力して情報公開をしていくべきだと思います。 動物がどこで生まれてどこで死んでいくか、知れば知るほど、消費者は、国内産の畜産物を無視できなくなるはずで、とにかく情報を隠さず、出すべきだと思います。</p>

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
法人	法人	東京都	その他	畜産環境	<p>環境破壊の対策の一つとして、畜産業を縮小していくべきである。 米国のワールドウォッチ研究所が2009年に発表した論文によると、畜産業からの二酸化炭素排出量は少なくとも年間326億トンで、世界の年間排出量の51%に上るとしている。OIEは2011年から2015年までの第5次戦略会議で「家畜生産と地球環境」をあげており、畜産業から出されるメタンガスの軽減などが課題となっている。畜産業、特に牛が環境破壊の主要要因のひとつであることは、すでに2006年にFAOが報告しているところである。 地表面積の30%を占める畜産業は、環境問題と密接に関係しており、畜産業の縮小は早急に取り組むべき課題と考える。</p> <p>食料危機・水不足を回避するために、畜産業を縮小すべきである。 2012年イギリスのガーディアン誌は「壊滅的な食糧危機を避けるためには、今後40年間で世界人口はほぼベジタリアンにならなければならないだろう」という警告を出している。また国連は2025年には世界中の2/3の人が水不足に陥るだろうとっており、国連環境計画は、「2030年までに17億増える人口を養う水を確保するためには、天水に頼る作物栽培を増やすとともに食肉消費も減らさねばならない」と発表している。</p> <p>飼養規模拡大を推進すべきではない。 すでに日本における1頭あたりの飼養規模は高い。EUでは乳牛の平均飼養頭数が33頭、日本は72頭。規模の拡大は、機械化、施設化、畜産と耕種部門の分離につながる可能性が高く、そのような工場型の畜産は石油エネルギーに依存しており環境への負荷が高いものになってしまう。また、飼養規模拡大は、資金のある大手が生き残り小農家がつぶれることにつながる可能性が高いのではないかと。ノルウェーでは農場サイズを制限する法律を持っている、6次産業の促進のためにも、そのような小農業の保護につながる施策をとるべき。</p>
女性	50代	東京都	主婦	畜産環境	<p>身動きできない場所で拘束され、薬漬けにされた牛肉や牛乳を摂取している人間がいつまでも健康でいられるはずはない。今後は国民の食肉離れが進むだろうが、危険な外国産に対抗できる「心身ともに健康な国産牛」というイメージが周知されれば生き残れるだろう。伝染病の度に全頭殺処分する愚を重ねるよりは放牧飼いに切り替えた方が無駄もでないと思う。</p>
女性	40代	大阪府	会社員	畜産物流通 (生乳・食肉)	<p>消費者のニーズに応えた、動物福祉食品の流通の拡大を図るべきである。(放牧畜産認証制度や、JAS規格の有機畜産物の拡大) 2009年「東京都食育フェア」で、672人におこなわれたアンケートでは放牧牛乳を購入する意思があるかについて尋ねると、価格が高くても購入したいが40%。1パック 350 円の放牧養鶏卵でも購入すると答えた消費者が 49%と半数近くいた。しかし現実にはこういった商品を置いている小売店は少ない。放牧畜産認証を受けているのは45件、JAS有機畜産物はたったの8件しかなく、消費者が動物福祉に配慮された食品を手に入れることは現状困難である。</p>
女性	40代	大阪府	会社員	畜産物流通 (生乳・食肉)	<p>「乳脂肪3.5以上」を見直すべき。 スーパーで売られているのは、乳脂肪3.5%以上の牛乳ばかりだが、3.5以上を維持するには、放牧酪農を行うことは困難である。夏期の水分の多い草を食べた牛の乳と、冬の水分の少ない草を食べた牛の乳の乳脂肪率が違うのは本来当然のことであり、濃厚飼料を減らし、放牧酪農を拡大させるには、夏は脂肪分が低く、冬は高い、こういった牛乳が当たり前流通するしくみをつくるべきである。</p>
法人	法人	東京都	その他	畜産物流通 (生乳・食肉)	<p>畜産物流通(生乳・食肉) 消費者のニーズに応えた、動物福祉食品の流通の拡大を図るべきである。(放牧畜産認証制度や、JAS規格の有機畜産物の拡大) 2009年「東京都食育フェア」で、672人におこなわれたアンケートでは放牧牛乳を購入する意思があるかについて尋ねると、価格が高くても購入したいが40%。1パック 350 円の放牧養鶏卵でも購入すると答えた消費者が 49%と半数近くいた。しかし現実にはこういった商品を置いている小売店は少ない。放牧畜産認証を受けているのは45件、JAS有機畜産物はたったの8件しかなく、消費者が動物福祉に配慮された食品を手に入れることは現状困難である。</p> <p>「乳脂肪3.5以上」を見直すべき。 スーパーで売られているのは、乳脂肪3.5%以上の牛乳ばかりだが、3.5以上を維持するには、放牧酪農を行うことは困難である。夏期の水分の多い草を食べた牛の乳と、冬の水分の少ない草を食べた牛の乳の乳脂肪率が違うのは本来当然のことであり、濃厚飼料を減らし、放牧酪農を拡大させるには、夏は脂肪分が低く、冬は高い、こういった牛乳が当たり前流通するしくみをつくるべきである。</p>

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
団体	団体	東京都	その他	畜産物流通 (生乳・食肉)	<p>乳業の再編・合理化</p> <p>① 牛乳類の市場規模がピーク時より3割程度縮小している中で、依然、牛乳類製造施設は過剰な状況にある。</p> <p>② 牛乳類は、在庫が出来ず購買頻度が高いという商品特性を持つため、食品小売りにおいてロスリーダー商品として位置付けられ易い。こうしたことから、特に、最近の食品小売業態の多様化と競争激化の中で、需給やコストを適正に反映した価格形成を推進するためには、市場規模に見合った牛乳類製造施設の集約化と適切な統廃合、商品の差別化・個性化による高付加価値ブランドの開発・販売などの取り組みが、極めて重要な課題である。</p> <p>③ なお、牛乳類製造施設の集約化と適切な統廃合は、生乳流通への影響を与える問題であることから、生産者組織としても、十分当事者意識をもって取り組む必要がある課題となっている。</p> <p>■業界自らが行う取り組み</p> <p>① 業界自らが牛乳の価値を高めていくためにも、牛乳類製造施設の規模の適正化や統廃合についての取り組みを推進していくことが重要である。</p> <p>② また、酪農関係者にとっては、乳業の再編・合理化によって生じる様々な影響について、当事者意識をもって関与していくことが必要となっている。</p> <p>③ さらに、地域の酪農乳業関係者にとっては、互いに連携し、高付加価値ブランドの開発などの多様な取り組みを、推進することが重要である。</p> <p>■国に求める支援</p> <p>① 上記の業界が行う取り組みに対し、積極的な支援を行うこと。</p> <p>② また、地方自治体との調整について便宜を図るなど、適切できめ細かな指導を行う体制を整えること。</p>
団体	団体	東京都	その他	畜産物流通 (生乳・食肉)	<p>生乳及び牛乳乳製品の需要基盤の強化と適正価格の実現</p> <p>① 人口の減少や食生活の多様化などによる食品市場の構造変化の中で、生乳及び牛乳乳製品の需要基盤を確保・強化していくためには、牛乳乳製品の価値に対する理解醸成を図ることが重要である。</p> <p>② 牛乳乳製品市場の国際化が進展する中で、国産牛乳乳製品の需給状況や生産コストを適正に反映するとともに、生乳の持つ優れた機能を最大限に引き出すための商品の研究開発を通じ、牛乳乳製品の価値に見合った価格で、消費者が国産牛乳乳製品を評価・選択するよう促していく必要がある。③ また、食育及び児童生徒の健康増進などの学校給食における牛乳供給の総合的な役割を十分に踏まえた取り組みをさらに充実させることが重要である。</p> <p>■業界自らが行う取り組み</p> <p>① 日本の酪農乳業が持続的に展開することによって、国民に提供される多面的価値、牛乳乳製品の機能的価値などを、広く理解してもらうためのコミュニケーション活動について、酪農乳業関係者が連携して戦略的に促進することが重要である。</p> <p>② 学校給食における牛乳供給の安定的な継続と酪農教育ファームなどの食育活動をさらに強化して推進して行くことが重要である。</p> <p>③ 国産牛乳乳製品に対する国民の支持を強める観点から、牛乳乳製品の安全・安心の取り組みを、酪農乳業が一体的に推進していく必要がある。</p> <p>■国に求める支援</p> <p>・上記の業界が行う取り組みに対し、積極的な支援を行う。</p>

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
団体	団体	東京都	その他	畜産物流通 (生乳・食肉)	<p>酪農生産基盤強化のための生乳取引基準等の見直し</p> <p>① 現行の乳脂肪分取引基準については、特に都府県において、年間を通して乳脂肪分を高めるための飼養管理技術の実践が、飼料自給率向上の制約になってきた側面がある。また、最近では、乳脂肪分取引基準を確保するための飼料添加物や、輸入流通粗飼料の給与が一般化し、そのため生産コストが増嵩し酪農の収益性が低下したりするなど、より深刻な課題が顕在化している。</p> <p>② 酪農生産基盤の弱体化が深刻さを増す中、乳用牛頭数の確保が喫緊の課題となっていることを踏まえ、乳用牛の供用期間を少しでも延伸する工夫を行うことが、何にも増して重要であることから、都府県における体細胞数取引基準については、早急に見直すことが必要である。なお、体細胞数の把握や評価は乳房炎罹患牛の発見・治療を通じ効率的な酪農経営に資する視点から引き続き、適切な指導を行うことが重要である。</p> <p>③ 以上の課題を踏まえ、これらの取引基準については、早急に見直しに着手することが必要である。</p> <p>■業界自らが行う取り組み</p> <p>① 乳脂肪分取引基準については、国産自給飼料等の利用を促進する取り組みと平行して、現行取引基準をある程度緩和することについて検討を開始し、早期に生乳取引に反映させることが重要である。</p> <p>② 都府県の体細胞数取引基準については、乳用牛の供用年数の延伸などの課題を踏まえ、諸外国(とりわけわが国と同様の家族経営を主体に酪農を営んでいるEU)の基準等を参考にしつつ、合理的な水準に近づけることについて検討を行い、その結果を27年度生乳取引から反映させていく必要がある。なお引き続き、健康な乳用牛から生産された高品質の生乳を供給していくため、取引基準と指導基準を区分しつつ、乳房炎防除対策等を確実に実施するとともに、風味を始めとした各種の乳質検査を強化することが求められる。</p> <p>■国に求める支援</p> <p>・上記の業界が行う取り組みに対し、積極的な指導・支援を行う。</p>
団体	団体	東京都	その他	畜産物流通 (生乳・食肉)	<p>生産者組織の機能強化</p> <p>① 酪農生産基盤の急速な弱体化の実態を踏まえ、地域の実態に即した酪農振興対策を立案し推進していくことが必要である。そのためには、生産者組織が、生乳生産(酪農経営)から生乳販売までの機能を集約したり効率的に担当したりすることが重要である。</p> <p>② 生乳流通の効率化、適切な生乳の需給(流通)調整、生産者組織の運営の効率化などの視点から、地域によっては、指定団体の組織統合を検討する必要がある。</p> <p>■業界自らが行う取り組み</p> <p>① 効果的に地域の酪農振興を牽引していくための指定団体機能の強化を目指し、生産者組織の機能の統合化等の取り組みを促進させることが重要である。</p> <p>② また必要な地域にあっては、指定団体のさらなる組織再編などの検討も求められる。</p> <p>■国に求める支援</p> <p>・上記の業界が行う取り組みに対し、積極的な指導・支援を行う。</p>
団体	団体	東京都	その他	畜産物流通 (生乳・食肉)	<p>生乳及び牛乳乳製品の需給調整</p> <p>① 酪農生産基盤の弱体化が顕在化している状況においては、生乳計画生産対策が酪農生産基盤の安定を阻害しないよう、その手法については、生乳生産量を直接調整する方法から、生産された生乳の市場への供給や販売を調整する需要創出型の方法へ移行することが望ましい。</p> <p>② その場合、最終的な需給調整のセーフティネットとしての乳製品在庫調整の仕組みを整備しておくことが必要である。</p> <p>■業界自らが行う取り組み</p> <p>① 供給・販売調整型の生乳計画生産対策を引き続き実施することが重要である。</p> <p>② 生乳需給緩和による過剰乳製品の在庫調整に対しては、酪農乳業関係者が連携して対応する仕組みを構築し実施することを検討する。</p> <p>■国に求める支援</p> <p>・生乳及び牛乳乳製品の需給調整政策の基本的な考え方を明確にするとともに、業界関係者による乳製品在庫調整等の取り組みを支援する。</p>
女性	40代	大阪府	会社員	畜産物の高付加価値化	<p>動物福祉食品をひとつのブランドして推進すべき。</p> <p>イギリスやアメリカなど海外では、動物福祉に配慮された畜産物がラベルをつけて販売されている。農水省の畜産振興事業の一つに動物福祉を入れ、福祉向上に取り組む農家や、動物福祉に関する研究に補助金を出す制度をつくるなどして、動物福祉食品の普及に努めるべきである。</p>

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
法人	法人	東京都	その他	畜産物の高付加価値化	畜産物の高付加価値化 動物福祉食品をひとつのブランドして推進するべき。 イギリスやアメリカなど海外では、動物福祉に配慮された畜産物がラベルをつけて販売されている。農水省の畜産振興事業の一つに動物福祉を入れ、福祉向上に取り組む農家や、動物福祉に関する研究に補助金を出す制度をつくるなどして、動物福祉食品の普及に努めるべきである。
法人	法人	東京都	その他	畜産物の高付加価値化	動物福祉食品をひとつのブランドして推進するべき。 イギリスやアメリカなど海外では、動物福祉に配慮された畜産物がラベルをつけて販売されている。農水省の畜産振興事業の一つに動物福祉を入れ、福祉向上に取り組む農家や、動物福祉に関する研究に補助金を出す制度をつくるなどして、動物福祉食品の普及に努めるべきである。
女性	40代	大阪府	会社員	その他	食育の一環として、畜産動物福祉についての啓発も推進していくべきである。2011年に行われた畜産動物に関するアンケート(環境省)では82%の人が「アニマルウェルフェア」という言葉を知らないと回答している。国際通念となっている「アニマルウェルフェア」であるが、日本では多くの人に知られていない。そのため「アニマルウェルフェアの考え方についての賛否」という問いについては55%の人が「どちらともいえない」と答えている。畜産物を食する国民へ、動物福祉についての情報を提供するの畜産振興を推進する国の義務であり、社会一体となって畜産動物福祉について議論していく体制を整えるべきである。
法人	法人	東京都	その他	その他	<p>■酪農経営</p> <p>国際的に進められているアニマル・ウェルフェアへの取り組みを、日本でも推進すべき。 その一つとして、放牧主体の酪農への積極的な転換を図るべきである。 動物本来の習性を発揮できる放牧酪農はコストの削減につながるだけでなく、高い生産性にもつながる。東京大学の鈴木宣弘教授によると、「オーストラリアやニュージーランドでは牛乳1リットルあたりの生産コストが15～20円程。それに対し、日本は北海道で70円、本州で80円ほど。」とのこと。牛舎での効率重視した飼育は、自然な放牧スタイルよりコストがかかり、動物への負担も大きい。日本と同じ地理的条件のスイスは放牧が主流であり、日本も放牧主体の酪農は不可能ではないと思われる。</p> <p>アニマル・ウェルフェアの欠如からおこる疾病や異常行動への対策を充実させるべき たとえば、乳牛の跛行についてデータをとり床材・飼料・管理方法の改善をはかるべき。跛行は乳牛に苦悩と激しい痛みを与えるだけでなく、生産性にも影響を与える。イギリスでは農業水産食料省の調査で、乳牛の跛行はウェルフェアの問題だと認識されている。 また、本来子牛は1時間に6000回母牛の乳を吸うと言われており、産まれてすぐに母牛から分離される子牛は、乳に似たあらゆるものに吸い付くという異常行動を起こすことが知られている。バケツ哺乳ではなく人工乳首で吸乳できるように変えることで、消化酵素の分泌が大幅に増加することがわかっており、子牛の成長を促すためにも、母牛の乳を吸いたいという強い欲求を満たせるよう配慮すべきである。</p> <p>畜産の近代化を図るためには、国際的に推進されている動物福祉への取り組みは欠かせない。 その一つとして、牛の行動を著しく制限する繋ぎ飼育の規制を検討していくべき。 スウェーデン、ノルウェー、フィンランドでは、牛は放牧される権利があるとし、夏期の2～4ヶ月間の放牧が義務付けられている。また繋ぎ飼育する場合にも、スタンションストールに比べ、タイストールの方が牛の行動の束縛がきつく、繋留方法も規制を検討すべき。</p>
法人	法人	東京都	その他	その他	その他 食育の一環として、畜産動物福祉についての啓発も推進していくべきである。2011年に行われた畜産動物に関するアンケート(環境省)では82%の人が「アニマルウェルフェア」という言葉を知らないと回答している。国際通念となっている「アニマルウェルフェア」であるが、日本では多くの人に知られていない。そのため「アニマルウェルフェアの考え方についての賛否」という問いについては55%の人が「どちらともいえない」と答えている。畜産物を食する国民へ、動物福祉についての情報を提供するの畜産振興を推進する国の義務であり、社会一体となって畜産動物福祉について議論していく体制を整えるべきである。

性別	年代	都道府県	職業	御意見・御要望の分野	御意見・御要望
女性	40代	東京都	その他	その他	<p>現時点で論点として挙がっている中に家畜福祉の問題が含まれていないようですが、この点こそ最重要課題として取り組んでいただきたく要望いたします。</p> <p>特に酪農においては、(北海道で生まれた年の春のみ放牧することがあったとしても)全国的にほぼ生涯繋ぎ飼いで飼育されており、そのストレスはいかほどかと思えます。そういった不自然で不衛生になる飼育環境のために、電気ショックで立つ位置を教えたり、しっぽを落としたりといった残酷なことが行われているのも非常に耐えがたいことです。</p> <p>また、そもそも放牧に切り替えられないのは、高い乳脂肪分が求められていることに問題があるので、ここを下げるよう業界指導をするべきだと思います。世の中は低脂肪志向になっており、ここを転換させることに特に問題があるとは思えません。牛を閉じ込めて不自然なエサを与えて高脂肪にするのは間違っており、この点をぜひ改善していただきたいです。</p> <p>また、家畜福祉で生産物の値段が上がる等言われますが、最終価格は結局、補助金をどこに重点的にかけるかで変えることができるのではないのでしょうか。スイスではすでにウェルフェア対応製品のほうが価格が安くなっているとのこと。補助金の配分によって、日本でも放牧が推進されることを望みます。</p> <p>現行の酪肉近に書かれている家畜福祉に関する記述は既に実行済みかと思しますので、今後は放牧推進等、本格的な施策に取り組んでいただきたいです。よろしくご検討のほどお願い申し上げます。</p>